

ドラッカー氏の著書について

NO	初版年	書籍タイトル
1	1939年	経済人の終わり
2	1942年	産業人の未来
3	1946年	会社という概念(企業とは何か)
4	1949年	新しい社会と新しい経営
5	1954年	現代の経営
6	1957年	オートメーションと新しい社会
7	1957年	変貌する産業社会
8	1964年	創造する経営者
9	1966年	経営者の条件
10	1969年	断絶の時代
11	1969年	知識時代のイメージ
12	1974年	マネジメント
13	1976年	見えざる革命
14	1979年	傍観者の時代
15	1980年	乱気流時代の経営
16	1981年	日本 成功の代償
17	1985年	イノベーションと企業家精神
18	1986年	マネジメント・フロンティア
19	1989年	新しい現実
20	1990年	非営利組織の経営
21	1992年	すでに起こった未来
22	1992年	未来企業
23	1993年	ポスト資本主義社会
24	1995年	未来への決断
25	1995年	往復書簡1 挑戦の時
26	1995年	往復書簡2 創生の時
27	1998年	経営論集
28	1999年	明日を支配するもの
29	2002年	ネクスト・ソサイエティ
エッセンシャル版		
30	2000年	プロフェッショナルの条件<<自己実現編>>
31	2000年	チェンジリーダの条件<<マネジメント編>>
32	2000年	イノベータの条件<<社会編>>
33	2000年	テクノロジストの条件<<技術編>>
34	2001年	マネジメント【エッセンシャル版】
小説		
35	1982年	<<小説>>最後の四重奏
36	1984年	<<小説>>善への誘惑
関連図書		
37		ドラッカー名言集 経営の哲学
38		ドラッカー名言集 仕事の哲学
39		ドラッカー名言集 変革の哲学
40		ドラッカー名言集 歴史の哲学

ピーター・F・ドラッカー氏が遺した最後の書籍は2002年に書かれた「ネクスト・ソサイエティ」である。現在まで10年以上が過ぎている。「現代の経営」は1954年に書かれているから半世紀以上が過ぎている。如何にも古典のように思える。

だが、最近に出版されている経営学、マネジメントの書籍が、ドラッカー氏の書籍を超えているものはほとんどない。ハーバードビジネスレビューも、ドラッカー氏を踏襲している論文はあっても、超えるものを未だ見つけられないでいる。体系化され、知識が機能化されているものをほとんど見ない。氏の書かれた書籍は、仕事上で事に及んで、助けに成り得るはずである。時間が取れるとき、自らの教養として、学んでおくのも良いはずである。

ピーター・F・ドラッカー氏はマネジメントの父、知の巨人などと言われている。

氏は、1909年に生まれ、2005年に逝った。実に100年近く、世界を見つめていた。二つの世界大戦、世界恐慌、コンピュータの出現、ベルリンの壁の崩壊、インターネットの普及、eコマースの出現等々、数々の社会の節目を視てきた。激動の20世紀を視てきた。視ただけでなく、その時点を起点にして、過去から未来を掘り起こしている。常に「あるべき姿」を私たちに問う。

左に挙げたリストは氏がまとめた書籍である。できれば、すべての書籍を読むのが良い。一度読むだけでなく、二度、三度と読んで欲しい。二度目、三度目と回を重ねるごとに、組織と社会への理解を深めるだろう。氏の多くの書籍を読めば、自らの知識が、社会に適応していくうえで、体系化されていくことに気づかされるだろう。手に入れるのが困難になっている書籍もある。多くは再販されている。マネジメントを自らの仕事の中で活かすには十分であるはずだ。

最初に書かれた『経済人の終わり』は、経済学ではなく、社会学であり、政治学である。『企業とはなにか』は、タイトルのごとく企業の形態と社会における存在意味を説いている。『創造する経営者』は事業戦略本である。事業戦略を考えるあらゆる要素がまとめられている。『創造する経営者』と『経営者の条件』『経営論集』は合わせて読むと良いだろう。

氏は、マネジメントを体系化させ、マネジメントを科学に昇華させた。他の科学に働きかける動力を作りだした。マネジメントだけでなく、政治、経済、社会と広い範囲で人間の思考と行動を解いた。

初めて読むのであれば、『ネクスト・ソサイエティ』『明日を支配するもの』から始めると入り易いかもしれない。